宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311㈹
定価 一年送料共 1000円

神具・装束
結婚式場用品
福岡店 福岡市博多区東公園二－三一（〒812）
電話福岡（092）六五一－九四五六番
本店 京都市下京区油小路六条北入（〒600）
電話 京都（075）三四一－三三四一番
株式会社 井筒

遷宮二十周年記念祭斎行

当時に想いを馳せて

菊薫る十一月十二日、遷宮二十周年記念大祭が、厳粛に斎行された。

昭和四十六年に昭和の大造営とも言うべき、御本殿の大修復を中心とする辺津宮境域の復興整備を終え、早や二十年を経過、時代も昭和から平成へと変わったが、今年は遷宮二十周年にあたり、記念大祭として、思いも新たに斎行されたものである。

当大社の復興事業は、昭和十七年、故出光佐三会長の下に宗像大社復興期成が結成され、復興造営の第一歩が踏み出された。以来戦前・戦後の激動する社会状勢の中にあって変わらぬ崇敬の赤誠が捧げられ、たゆむことなく事業は推進されていった。その間、「宗像神社史」の刊行、また海の正倉院として知られる沖ノ島の学術調査が三次に亘って行われた。そしてこれらの事業によって、当天社の古い歴史と尊貴な由緒が明らかとなり、これと併行して神社境域造営整備の機運も高まり、国の重要文化財である御本殿の修理保存事業が、昭和四十四年から二カ年に亘り行われ、装いも新たとなった。

この御本殿の大修復に併せて、祈願殿及び大駐車場を新設、更に境内には勅使館、斎館、祓舎等を新築した。また、昭和五十年には第六十回式年遷宮に際し神宮より御下賜いただいた古材により、第二宮・第三宮が造営された。

昭和五十八年五月には、皇太子殿下同妃殿下（現天皇・皇后両陛下）御参拝の光栄に浴し、当社の社史に、昭和の輝かしい一頁が加えられた。

この二十年間の感激も新たに、祭典は定刻午前十一時、養父宮司以下純白の斎服に威儀を正した神職、地元総代が斎館前庭に列立、太鼓の合図とともに祓舎に参進、修祓をうけ本殿に昇殿、雅楽が奏でられる中、海川山野の神饌が神前に献供された。

次に養父宮司により祝詞が奏上され、続いて、優雅な舞姫たちによる浦安舞が奉納された。次いで、宮司が玉串拝礼を行い、祭典は滞りなく終了した。

祭典終了後、斎館に於て直会が行われ、三千鉢の菊花を愛でながら歓談の一刻を過ごした。

大学入試と古典の問題

大学入試から古文・漢文が消え始めている。この傾向はすでに若干の私大に見られたが、今年の入試では国公立の大学でも古文・漢文を外すところが現われ、来年の入試ではさらにその数は多くなるだろうと言われている。

その理由は何であるか。該大学では、受験生の負担の軽減など申し立てているが、要は若者の古典離れにつけこんで、若者を学校へ引き入れるための方策と考えられる。

どのような試験を行おうと、それは大学の自由であり、古文・漢文をやらない学校があってもそれをとがめることはできないが、この傾向が国公立にも広まり、全体に及ぶことになると由々しい問題となる。大学入試と高校あるいは中小の教育は一応別のことであるとはいっても、入試が高校以下の教育に影響を与えることは否定することのできない事実であり、もしこの傾向が拡大することになれば、古文・漢文など古典の軽視は一層助長されることになるだろう。そしてこのことは、伝統文化の軽視につながらないとは言いきれない。

○

古文・漢文を入試から外す理由にもなっているように若者の古典離れは進んでいる。学習指導要領では、小学校から文語の調子に親しむことを、中学校では、古典に親しむ態度を育て我が国の文化や伝統について関心を深めることを指示し、高校では、必修の国語でも古典と近代以降の文章との授業数の割合はおおむね同等とし、別に科目として古典が設けられている。にも拘わらず、古典の不振、古文・漢文の学力の低下は各種の調査の示すところである。

なぜ古典は振るわないのであろうか。根本のところを言うならば、社会における伝統の軽視がもろに学校教育にも影響していると言わなければならない。祖先を忘れ「今」だけを重視する悪しき民主主義がもたらしたものである。「中今」の感覚の喪失といってよかろう。そのために、学校では社会科が教育の中心となり、国語では現代国語が中心となり、古典は敬遠されるというのが現状である。また教科書にも教師の嗜好にあわせて古典はできるだけ軽くする傾向が見られる。

○

さて、この憂うべき現状はどのようにして解決したらよいであろうか。指導要領には古典尊重が示されているにも拘わらず、実情はそのようになっていない。文部省は、国語教育の目標を改めて確認し、教育の現場にたいして適切な指導をする必要があろう。また大学入試についても、古文・漢文の軽視が野放図に広がらないよう注意を促すべきである。

若者の古典離れを防ぐためには、古典の与え方についても反省が加えられなければならない。その一つは、従来の古典学習は、あまりに文法等の語学に中心がありすぎたのではないかということである。語学を無視してよいという訳ではないが、これが過ぎると、古典に親しむ気持ちをうばってしまう。これからの古典学習は、古典を通して、日本の文化や祖先の心を知ることに重点が置かれるべきで、それには、分かりやすい解説、おもしろい論文を加えるなど、指導上の工夫が必要である。古典学習を右のように解するならば、従来の王朝の女流文学中心の教材構成は考え直されなければならない。

若者たちに最も大きな負担感を与えている漢文については教材をしぼったがよい。漢文学習の目的は、中国学の一端を知るということではなく、日本文化に大きな影響を与え、日本の古典ともいうべき漢文を学ぶのであるから、論語や孟子、それに若干の詩文に限ったがよい。漢文には、現代の言語環境からは極めて稀にしか遭遇しない文字が少なくない。若者の学習負担の比重を考えたとき、漢文は必要なものに限り、理解を深める方向をとるべきではなかろうか。

○

確かに古典の学習は多くの問題を抱えている。しかしそれ故に古典を軽視することは許されない。民族の文化や伝統に深く関わっているからである。「今」は過去を問うことなくしては決して厚みのある豊かなものにはならない。古典を学ぶことの意義はそこにある。現代べったりの学習はもう限界にきていると言ってよい。

（神社神報より）

年越の大祓式並びに除夜祭の御案内

歳の瀬を迎え、皆様方には御多忙の御事と拝察申し上げます。

扨て、恒例の年越の大祓神事並びに除夜祭につき御案内申し上げます。

この神事は一年間の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持で新年を迎える儀式であります。

又、除夜祭は一年の祭典の納めを神前に奉告し、御神徳に奉謝する祭典であります。

本年も左記日程により、大祓式並びに除夜祭を斎行します。皆様方と御一緒にこれらの儀式・祭典に奉仕し、清き心で新年をお迎え致し度く、御参拝・御参列の御案内を申し上げます。

記

一、十二月三十一日　午後五時　年越の大祓式
　引き続き除夜祭斎行

一、皆様方に御送付申し上げました人形の赤白は、男女の区別を表したものであります。
　男は白、女は赤に氏名・年齢を書き、息を吹きかけ初穂料を添えられ十二月三十一日までに当大社へ到着するよう御返送下さい。

宗像大社社務所

余滴

本年も残すところあと僅かとなり、新しい年の始まりがすぐそこまで近づいて来た。

子供の頃に「一年の計は元旦にあり」とよく言われたものである。

新しい年を迎える度に、誰でもが少なからず「今年こそは」と、心機一転、更なる飛躍を願い、新たな目標を目指して進もうとする。初詣でもして早速実行に移そうとするのであるが、あれもしたい、これもしたいと色々考え、様々な思いを巡らしているうちに、心の隅に少なからず不安や迷いが生じてくる。今の自分の力で果たして出来るのだろうかと。ともすれば、万全を期そうとするあまり、あれこれ考え過ぎ、心のどこかに臆病風にとりつかれて、ついには三日坊主で終ってしまうことが多々ある。

然しながら、未来のことや、より困難なことを目標にして立向って行く時、尻込みしない人はいまい。そこで思い直して臆病風を吹き飛ばし、立向って行ってこそ、得難い経験と勝利を手にすることが出来る。

「当って砕けろ」。思い切って何事にも立ち向ってみると、たいがいの困難は克服出来るものである。また、困難がより大きなものであればある程、得られる喜びも楽しみもより大きく、自分の力も伸びるのではなかろうか。

そこで「今年こそは」と思いを決めたならば、自分自身の内に秘められた、大いなる可能性を信じ、自分自身を勇気づけて、力強く新しい年を踏み進んでもらいたいものである。

第三六六回 宗像大社歌会詠草

中村吾郎 選

毎月末日〆切

八幡東　大塩ミヤ子
台風に停電すれば炊飯器に洗ひし米を鍋に移し炊く
（評）事実を隠さず巧まず有りのままに写して妙。読者は意味を云々する必要はなく想像すれば足る。

吉留　高山　信子
ひそやかに茗荷の花の咲く木蔭えらび草取る秋暑き日に
（評）具体的にさりげなく詠まれてあって共感を起こさせる。誰にでも経験のありそうな生活の一齣だが。

自由ヶ丘　細川　絹子
突然に体ゆさぶる地震あり火を止め二階の夫を確かむ
（評）地震を感じて最初に火を消すのは常識だが、「夫を確かむ」で生きた。一瞬の出来事を捉えて適格。

田熊　鷲頭かつ代
今年またバルーン大会始まりて百の気球は秋空を飛ぶ

田野　力丸　澄子
こぎ終へし新わら青く温かし親みもちて更に喫ぎをり

武丸　中村さつき
一度咲き刈られ二度萌ゆ泡立草疎まれながら鮮やかに咲く

名古屋　小田　留子
裏町の辻を廻ればあるなしの風に木犀匂い来るなり

八幡東　江口　妙子
窓近き部屋に覚むれば朝光に昨日傷つきし子鳩の歩む

八幡西　山田　耕夕
妻はまた妻の思惑あるらしく計算機打つ年の瀬に来て

須恵　馬場　ヤヲ子
乳房の局部麻酔で手術受く鋏の音のいやに淋しき

大島　日原　節子
颱風に一葉もなき庭柿の枝たゆませて熟実かがやく

光岡　竹浦　葛明
田はすでに切り株と変り晩秋の冷たき風は肌をつきさす

自由ヶ丘　津江冨美子
停電となりてこの部屋静かなり只一本の蝋燭燃ゆる

福岡東　清原　組代
雨に満ちし川の流れに鷺の群岸の木立の下枝に宿る

田久　立花　勇雄
街をゆく九州場所の関取の姿も見えて秋も深みぬ

池田　小田　イセ
風雪は長く古木となりし櫨の株今日谷川に根ごと抜け落つ

福間　本松　宣子
乾きたる洗濯物をたたむ手に残る温みと日向のにほひ

赤間ヶ丘　松本　澄子
湖よりの風に鐸のにぶき音団体客の去りしひととき

八幡東　古賀ハツネ
激震に慌てて消しぬ燈明を朝の勤行なし居るときに

香椎　桜井　ツ子
公園のベンチに試歩の杖をやすめひかり降る小春の空を眩しむ

田熊　力丸　一郎
朝靄の流るる見れば四塚の山のなだりに日の差し初む

河東　薄　かほる
のり巻きに厚焼たまごの折かろし夫の誕生日を恋の浦に来つ

八幡西　山田アヤ子
久方に夜具を干したり秋日和陽の匂ひする一人居の部屋

池田　小田しめの
咲きたけて道に枝垂る白萩の花こぼしつつ風は過ぎゆく

神宮大麻並宗像大社神符 頒布祭斎行

平成四年神宮大麻並びに宗像大社神符の頒布祭が、去る十一月二十六日（火）午前十一時より、当大社祈願殿に於て、福岡県神社庁横田副庁長、同宗像支部大澄支部長、当大社養父宮司を始め郡市内の神職及び総代約百七十名参列の下、厳粛且盛大に執り行われた。

祭典は、定刻斎主中村氏彦副支部長以下奉仕神職が雅楽の奏される中参進、修祓に引続き、神宮大麻が郡内各戸にくまなく奉斎され、国家皇室の総守護神である天照大神の御加護の下に、国民全てが平和で豊かな生活を送ることができるように、又、頒布に従事される総代各位が病気や不慮の事故に会わないようにと、荘重な祝詞が奏上された。続いて参列者代表各々玉串を捧げて拝礼、次いで神宮大麻は宗像支部総代会山下広会長に、宗像大社神符は宗像大社氏子会河野幸人会長に各々斎主より手渡されて、本年の頒布祭を滞り無く終了した。

祭典に引続き清明殿にて式典が催された。式典は国歌斉唱、神宮並皇居遥拝、敬神生活の綱領唱和の後、神社功労者を表彰。続いて横田副庁長、大澄支部長、養父宮司が各々挨拶をされ、神宮大麻が一体でも多く頒布されるよう、総代各位の一層の尽力をお願いし、式典を終了した。

神宮大麻は、かつては「お祓さん」「御祓大麻」と称され、伊勢の御師によって全国に頒布されていたが、明治五年より神宮司庁によって全国に頒布され、「御祓大麻」を「神宮大麻」と改称、皇大神宮の大神璽として、各戸に頒布された。

現在は神宮司庁に大麻課を置き、神社本庁に頒布の一切が委託され、全国各神社庁を経て、神職及び氏子総代の賞様の奉仕と努力により、各戸に頒布が続けられている。

明治祭斎行

明治天皇の御聖徳を仰ぎ

菊香漂う十一月三日、境内では剣道大会や吟剣詩舞道大会などの神賑行事が行われ、更には質・規模共に西日本一を誇る西日本菊花大会の拝観者で大いに賑いを見せる中、午前十一時に明治祭が斎行された。

当日は雲一つない絶好の祭典日和となり、定刻、太田権宮司以下神職、地元総代等が斎館玄関に整列、大太鼓の合図と共に参進、祓舎にて修祓の後拝殿所定の座に着座、典儀が明治祭斎行の由を告げ、祭典が開始された。

明治天皇の御聖徳を讃え、皇室の弥栄と国家・国民の安泰を祈念して権宮司が祝詞を奏上、次で権宮司以下神職、氏子総代が玉串拝礼を行って、祭典は滞り無く終了した。

この十一月三日は、現在「文化の日」と称して祝日とされているが、本来は近代日本の礎を築かれた明治天皇御生誕の日「明治節」であり、国民こぞって明治天皇の御聖徳を仰ぐ日として、祝日に制定されたものである。

大東亜戦争以降、多くの祝日が本来の意義を失い、ただ単に休日として扱われるようになった。しかし国際化社会と呼ばれ、国際人の一員としての姿勢が問われている今、私達は祝日の持つ本来の意義を理解し、日本人としての自覚を持つことが、真の国際人となることではなかろうか。

第二十回 宗像大社献詠短歌大会

福岡県知事賞に白木うめのさん（宗像市）

本年で二十回目を迎えた宗像大社献詠短歌大会（主催＝宗像大社歌会、後援＝毎日新聞社）が、十一月九日（土）、当大社清明殿に於て開催された。

本大会は、短歌愛好者にとりお互いの交流を深めるだけでなく、自分の詠んだ歌が選者の先生方や参加者にどんな評価を受けているのか、また歌を詠む時はどんな点に注意すればよいのかなど、非常に勉強になると好評を博している。

本年も一二三首の詠草がメ切日の九月五日迄に寄せられ、早速詠草集を作成し参加者に送付、約一ヶ月をかけて得票集計や各賞の確認など、大会当日に向けて諸準備を進めた。

大会には百余名が参加、先ず寄せられた詠草を神前に奉奠し、選者、参加者の平穏と斯道の発展を祈念した。神事に引き続き大会に移り、開会の辞の後、当大社養父宮司が、昭和四十六年の遷宮を奉祝する行事として始められた本大会の経緯を説明、関係者並びに各位の永年に亘る尽力に感謝の意を述べると共に、今後の支援をお願いした。続いて、再度の鑑賞を希望する多く方々の声に答えて、沖ノ島の記録映画「海の正倉院」を上映し午前の部を終了した。

昼食をすませた後の午後の部では、選者の先生方の紹介に続いて、先生方と参加者による入選歌の相互評、また各先生方による全詠草の批評と、約三時間に及ぶ相互評が熱心に行われた。特に本年は、数年振りに女性の選者として江口冨士子先生をお迎えし、女性としての感性から批評をいただいたことで、内容も一段と充実したようであった。

相互評終了後入選歌の発表、表彰式を行って午後四時過ぎ、本年の献詠短歌大会も無事終了した。

尚入選歌並びに各賞受賞者は次の通りである。

※大会開催規約により当日正午迄に出席なき方は、得票数上位でも受賞資格を喪失。

【選者賞】

一席　福岡県知事賞
　宗像市　白木うめの
　生地うすくなりし木綿の仕事着の肩のあたりをよく虫が刺す

二席　福岡県教育委員会賞
　筑紫野市　上村　和子
　スニーカー履きて蹤きゆく平和行進征きしままな君思いつつ

三席　宗像大社宮司賞
　筑紫野市　平田ヨシ子
　朝光に煌めく波をおしわけて進むフェリーの航跡長し

四席　毎日新聞社賞
　福間町　藤田　肇
　使はざる古鍬のごと錆びゆくか耕地売りたる老農の身は

【互選賞】

一席　宗像大社歌会々長賞
　福間町　野口　幸三
　長雨に稔りし麦の芽ぶけるを老はしづかに両掌につつむ

二席　宗像大社氏子会長賞
　下関市　細野　千恵
　身障者の手帳を持ちてみちのくに子は二ヶ年の研修に発つ

三席　玄海町教育委員会賞
　宗像市　藤井　浩子
　背を向けて眠る日もあり手を触れて眠る日もありぬ四十年経つ

四席　毎日新聞社賞
　中間市　浜口　秋雄
　潮騒を聞きつつ登るふる里の蜜柑の畑は空に迫りぬ

五席　毎日新聞社賞
　中間市　勝原たか子
　絹雲の夕焼けにつつ丘の辺を夫を連れたる少年はしる

六席　毎日新聞社賞
　遠賀郡　加藤　栄子
　淡紅に流れる雲の夕べなり余生を染めてわれも生きたし

七席　毎日新聞社賞
　中間市　入江　茂
　覗き見る装飾古墳に褪せし丹の矢筒に沓き修羅のまぼろし

八席　毎日新聞社賞
　福岡東　清原　絹代
　爆発を逃れゆく人トラックに小牛ら有め共にゆれいつ

【佳作】

一席　福間町　本松　宣子
　満洲ははるけくありて薄れゆく記憶の中の父眠る丘

二席　玄海町　永富　臻
　繁り合ふ若葉のさやぐ参道に踏みどもあらず楠の花散る

三席　宗像市　力丸　一郎
　片言もあやふき曽孫が毬を手に投げの構へでわれに挑み来

四席　福間町　宮木　勝弘
　針仕事うまくはゆかぬ裏までも縫ひてしまへり亡妻偲ぶ

五席　宗像市　岡村すみ子
　山里の朝露おびた稲は今開花まじかの膨らみをもつ

六席　津屋崎町　牟田とし子
　いさかいて祖くきざみし太根の煮ゆる音のみ室内にする

七席　宗像市　長沼美恵子
　まねかれてしぶしぶ仕度す行かざるも行くも気兼な息子らの家

八席　玄海町　占部　元子
　空に書く姑の指文字のいろはにほゆめの「め」の字を吾に尋ぬる

九席　遠賀郡　白木　昭子
　北風をその家に避けて建てくれし子の温もりに老いを深むる

十席　玄海町　小田　イセ
　迎え火は明るく点せ遠く来る祖らのみ霊疲れいまさむ

一誌一話 (13)

足利尊氏の九州入り

樂　岑　子

今年の神宝館は足利尊氏着用の鎧が当り年で、この一年、尊氏〈で明け暮れた。特に九月以降は拝観者のなかでも『足利尊氏のよろいを見せてください。』という人が続々とあらわれたといっても過言ではない。また古代探訪や歴史と文化を索する個人や団体も、今年は尊氏を追う学習内容が多い。何故ならこれは、NHK総合テレビ日曜日夜八時からの大河ドラマ「太平記」の影響である。九月一日には太平記の故郷（ふるさと）として、宗像大社と所蔵の足利尊氏胴丸が放送されている。さすがNHK、全国ネットを持つ一大放送局だけあって、常にこの局の放送は何処かで誰かが見ている。その点価値ある存在で、これをCMに利用しない手はない。

延元元年（一三三六）二月十二日、京都で後醍醐帝に敗れた足利尊氏一党は船で九州落ちをしてきた。再度軍紀も整え力を養い、再び上洛して天下を纘める野望に燃えた心を、深く秘めての九州落ちでもあった。

尊氏が室町幕府を興す礎となった「多々良浜合戦」は三月二日である。この時初戦には敗れるが、天気が変わり風向きも追風となり、それが好運となって大勝したといわれている。

三月一日、足利尊氏、葦屋津に上陸し、宗像大宮司館に入る（梅松論）

三月二日　足利尊氏、多々良浜にて菊池武敏を破る。大宮司氏範は一族三百餘騎を引きつれ参戦、北軍搦手に属し奮戦す（梅松論）

四月二日　足利尊氏、大宮司氏範に勲功の賞として楠橋荘（八幡西区）を與う（宗像神社文書）

五月廿五日　湊川の戦にて楠木正成歿す（梅松論・太平記）

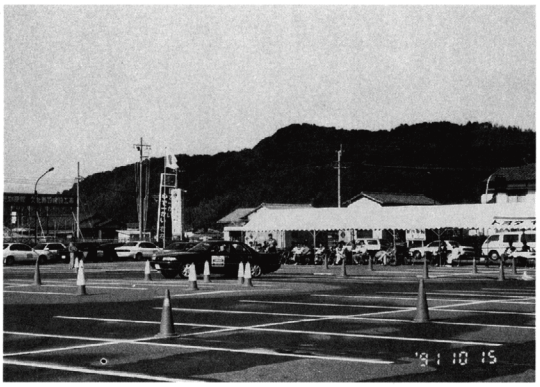
どの古典も足利尊氏は葦屋浦（遠賀郡芦屋町）に上陸し、少弐頼尚の案内で宗像大宮司の館に泊る。翌日柏屋郡多々良濱（福岡市東区）で菊池武敏を敗る。戦況は細かに綴られるが、芦屋から多々良までの陸路の記載がない。今は幾つもの宗像越えの路が語られる。

尊氏が通った道、宗像路は古代の官道である。「万葉の道」であろう。芦屋港で下船し、今の郡境の垂見峠を越えて宗像に入り樽見川沿いに下る。鎮国寺下の吉田で釣川を渡り宗像社に参る。ここで宗像大宮司氏範に会い、大宮司館にて一泊する。これがポピュラーである。

太平記の時代は体制が北条氏から後醍醐天皇へと、政権も一旦武家から親政へと移ったが、また南朝方と北朝方に二分され、各々の利欲も重なる永い動乱の世へ入った。この頃九州の主力豪族として勢力を誇っていたのが菊池・足利方の少弐・大友・島津である。往古から九州の入り口に勢力を基いていた宗像族は、当時は少弐一党に属し、豊前の大友氏や周防の大内氏と戦闘を繰り返している。この様な状況下での尊氏の九州落ちが、翌日の多々良浜合戦の戦勝を願って己の味方地宗像入りである。やはり中心部である宗像社の境内地内の大宮司屋敷としたであろう。何故ならばより安全に心穏やかに休息でき、戦備を整えるのにも最適の所であったからである。

「トヨタ・ヤングドライバーズクリニック in 福岡」

車の性能と安全運転を指導



十月十五日（火）当大社の大駐車場で、トヨタ自動車㈱及び福岡トヨタ販売店グループ主催による、安全運転実技講習会が開催された。

トヨタ自動車㈱では、車社会に拘わる企業の使命として、交通事故の低減を願い、幼児や高齢者を対象とした「トヨタ交通安全キャンペーン」など、その時代時代に即応した運動を永年展開してきたが、近年、車の性能が大幅に向上、それに伴い若者による交通事故が増加の一途をたどっている現状に対応して、ヤングドライバーを対象に、安全運転実技講習会「ヤングドライバーズクリニック」を昭和六十二年より開始した。

同講習会は開始以来、富士スピードウェイや茨城県の日本自動車研究所など、全国各地で開催されてきたが、本年、九州では初めてこの講習会を当大社で開催、ヤングドライバーに限界時の車の挙動体験などを通じ、安全運転の大切さを改めて認識させた。

当日の講習会には、七十名の応募者の中から抽選で選ばれた、女性ドライバー三名を含む四十名が参加、「トヨタチームトムス」のプロドライバー鈴木章・鈴木恵二両氏の指導のもと、適切な運転姿勢と低速スラローム、ミラーの死角エリアの確認といった基本の学習に加え、濡れた路面ではタイヤがロックした場合、車がどうなるかを理解するフルロックブレーキ体験、限界状態を越えた時のコーナリングに於けるFF車の挙動特性（アンダーステア状態による路外はみだし）とFR車の挙動特性（オーバーステア状態によるスピン）の体験、ブレーキを力いっぱい踏んでもタイヤのロックを防ぐ安全装備ABS（アンチロックブレーキシステム）の作動時と非作動時の違いなど、いろんな角度から車がどういうものなのか、また運転はどうあるべきかを学んだ。

トヨタ自動車㈱が用意した、最新型の車で、プロドライバーのアドバイスを受けながら様々な体験をした参加者達は、スピードの出し過ぎがいかに危険なものかを身を以て体験、車の性能を過信せず安全運転こそドライバーとして、最低限のマナーであることを痛感していた。

第十七回 奉納柔道大会

神前で力と技の応酬

去る十一月九日午後一時より、恒例の秋季奉納柔道大会が、本殿西側の玉垣内で開催された。

この大会は、昭和四十六年の遷宮を記念し、毎年宗像地区柔道協会主催により開催され、今年で十七回目を迎える。試合方法は学校対抗の団体戦と個人戦で、宗像市郡内中学校の一、二年生で行われている。

野試合のため、毎年空模様を心配しての開催となる。今年も前日に雨が降り会場を移さなければと気をもんだが、当日になると秋晴れの好天に恵まれ、関係者一同をほっとさせた。

大会には本年も約七十名の選手達が参加、試合に先立ち本殿前に整列してお祓いを受けた後、宗像地区柔道協会の田中駒雄会長が開会の挨拶を行って、試合が開始された。

各選手は母校の名誉をかけ、稽古で錬磨した技と気力を遺憾なく発揮せんものと、激しくぶつかり合い、互いに一歩も引かぬ熱戦を繰り広げて、詰めかけた大勢の観衆から温かな声援を受けた。

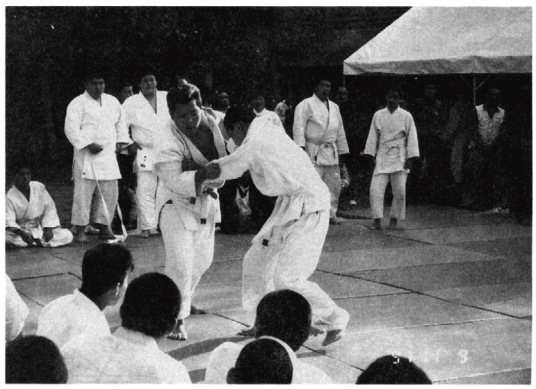
成績は次の通り

（団体戦）

一位　福間中学校
二位　津屋崎中学校
三位　城山中学校

（個人戦一年生の部）

一位　平野泰寛（津屋崎）
二位　浜中宏和（城山）
三位　長崎信義（津屋崎）



（個人戦二年生の部）

一位　日高吉三郎（城山）
二位　壱岐健司（玄海）
三位　伊東利樹（福間東）

第十九回 秋季奉納盆栽会

―より一層の飛躍を目指して―

錦秋の十一月八日より十二日迄の五日間、恒例の秋季奉納盆栽展が、当大社祈願殿待合ロビーに於て開催され、参拝者や愛好者の目を大いに楽しませた。

本年で十九回目を数えるこの盆栽展には、宗像市郡内の盆栽愛好家で組織する、宗像大社奉納盆栽会々員秘蔵の盆栽、約五十席が出品展示された。鑑賞者の中には毎年訪れ、会員と顔なじみの方もあり、盆栽仕立ての技術談義に話がはずむ光景も目についた。

秋の盆栽展は、藤や皐月など花物を主とした春の盆栽展に対し、松柏類の木物が中心となっており、華やかさはないものの、しっとりと落着いた雰囲気に心洗われる思いがする。

特設展示場に展示された緑鮮やかな盆栽は、いずれも会員が丹精込めて仕立てたものだけに逸品揃いで、鑑賞者は熱心に見入っていた。

本年は、参拝者や愛好者への対応を積極的に行った結果、かなりの評価を得ただけでなく、その効果も顕著であったので、二十回目を迎える来年の盆栽展は、より充実した内容で開催することを全員で申し合せた。

第十二回 少林寺拳法奉納演武会

境内に咲き競う約三千数百鉢の美事な菊花と、可愛い晴着姿で両親に手を引かれながら七五三詣に訪れた子供達が目についた、十一月十七日（日）午後一時より、第十二回少林寺拳法奉納演武会が行われた。

この演武会は、宗像市少林寺拳法連合会が奉納。宗像地区の少年拳士、福岡教育大生、一般拳士総勢百三十名が、宗像大社の神前で日頃の修練の成果を披露した。

大会役員、福教大少林寺拳法部員により、本殿西脇広場に特設された、約五十帖の屋外道場も昼過ぎには完成、定刻午後一時、参加者全員が神職のお祓いを受け、神前での拝礼の後演武会が始まった。

先ず少年拳士による演武が行われ、きびきびとした所作で、鍛練した日頃の成果を十分に発揮し、大人顔負けの見事な演武に、多く観衆より盛んな拍手が贈られた。

続いて学生から師範までの模範演武が行われたが、勇壮で緊張感あふれた演武に、会場も張り詰めた空気が漂い、観衆もただただ圧倒されるばかりであった。

午後二時過ぎには全ての演武を終え、参加者全員で後片付けを行い、本年の演武会も無事終了した。少林寺拳法の演武会など、日頃あまり目にすることもないだけに、参拝者も熱心に見学、各演武が終わる度に盛んな拍手を贈り、終日大いに賑った。

―◇お知らせ◇―

正月に左記の放送があります。ご覧下さい。

日　時　一月元旦（水）午前七時～八時三十分
放送局　全国ABC系ネット　福岡は九州朝日放送
題　名　〝残したい日本〟
内　容　残り少ない日本の美しい自然と、そこで暮らす人との調和のとれた風景を紹介し、元旦の清純な心に清らかな自然と人との関わりを伝える。特に九州は沖ノ島からの「伝統が守られる神の島・沖ノ島」（九州朝日放送製作）の放送です。

日　時　一月六日（月）午後八時～八時四十五分
放送局　地球ファミリー　NHK総合テレビ
題　名　〝島の神に守られた海鳥〟
～玄界灘のオオミズナギドリ～
内　容　神の島として人々の尊敬を今に集める玄界灘の孤島・沖ノ島は「樹に登る海鳥」オオミズナギドリの一大繁殖地。古来、一木一草の採取も禁じた島の神性と海鳥の繁栄が深く係る。日本人が抱き続ける自然への態度を、神の島の海鳥の生態を中心に日本人の自然感を見つめ描く。

社務日誌抄

十一月一日　月次祭
第五回宗像名刀展開催（二十四日迄）
勝浦小学校遠足七十名来社
十一月二日　福岡南安全運転管理者協議会二十五名参拝
十一月三日　明治祭
第十七回奉納吟剣詩舞道大会
第二十回奉納秋季剣道大会
出光興産㈱創業八十周年祭並物故者慰霊祭
於東京プリンスホテル養父宮司外神職四名出向奉仕
十一月四日　第十八回宗像本因坊戦
福岡市姪浜老人クラブ四十名参拝
沖中両宮奉賛会・同翼賛会・同敬神婦人部二十名来社
十一月五日　宇土菊友会四十五名、遠賀菊友会、JR九州園芸部、葉山老人クラブ十八名来社
宗像警察署長加藤昌隆氏外八名来社
十一月六日　福岡県議会議員藤田茂令氏外後援会三十名参拝
出光興産㈱嘱託松本益雄氏参拝
KBCラジオ菊花大会取材
十一月七日　神宮研修所主幹神宮権祢宜臼井喬彦氏、領布部奉製課木本雅文氏外研修生参拝
長崎県護国神社祢宜藤田茂穂氏外学生三名参拝
全国国立教育系大学事務局長会議代表山下富男氏外十五名参拝
十一月八日　第十九回秋季奉納盆栽展開催（十二日迄）
NHK井手ディレクター外三名沖ノ島取材の為来社
十一月九日　第二十回宗像大社献詠短歌大会
第十七回奉納柔道大会
葦津珍彦氏、神社新報社葦津泰国氏、神社本庁録事葦津敬之氏参拝
十一月十一日　福岡県農林事務所農産課佐藤セツヨ氏外三名来社
福岡市西長住老人会五十名来社
十一月十二日　鑽座二十周年記念祭
KBC臼井ディレクター外三名沖ノ島取材
粕屋郡古賀町老人クラブ五十名参拝
十一月十四日　自由ケ丘小学校PTA三十名参拝
十一月十五日　月次祭
宗像会由良半三郎氏外十五名参拝
十一月十六日　長崎県大島町長秋山隆雄氏外十八名参拝
十一月十七日　第十二回少林寺拳法奉納演武会
十一月十八日　出光興産㈱兵庫製油所副所長田中孝氏、安全環境室長佐野浩氏参拝
出光タンカー㈱社長窪田雄一郎氏、同業務一部長佐々木茂氏参拝
十一月二十日　大分県下毛郡山国町役場社会教育推進協議会三十七名参拝
粕屋郡古賀町歴史講座三十名来社
田川郡大任町教育委員会六十一名来社
十一月二十二日　田島老人クラブ中村正美氏外六十名参拝
十一月二十三日　新嘗祭
宗像神奈会七名参拝
十一月二十四日　中国歴史博物館長兪偉超氏、岡村九州大学助教授、石山県文化課々員来社
十一月二十六日　宗像大社氏子会評議員会
福岡県神社庁宗像支部
神宮大麻領布祭並宗像大社神符領布祭
福岡県神社庁宗像支部支部会於スカイホテル
出光興産㈱海外部長井元明暢氏外一名参拝
宗像海運㈱曽根純雄船長外三名参拝
東福間老人クラブ三十名参拝
十一月三十日　北海道神社庁札幌支部長三橋文憲氏外五十名参拝
出雲市長岩国哲人氏、宗像市長滝口凡夫氏参拝
古式祭打合せ会

宗像大社歌会
俳句作品集（三四五）

若松　井手　清隆
補陀落の小春の海の流し網

藤沢　井上　団平
常盤道の遥かなる果狭霧こむ

福間　森　清
小春日や蜘蛛の国の飛ぶ七彩に

滋賀　岩瀬　辰夫
さし芽から育てし菊の花盛り

名古屋　小田　喜一
露草に屈めば城跡音のなし

名古屋　小田　留子
道祖神守りて咲きぬ曼珠沙華

津屋崎　西住喜三郎
柴垣の中色楽し郁子熟れる

福岡中央　力丸　玄風
たかぶりを菊花展へと老の足

田熊　安部　ゆき
道すがらホ句練る老や野菊濃し

日の里　花田いつ枝
ふんはりと裾曳く姫や菊衣

福間　二宮　末子
赤赤と灰火燃えてる旅の宿

平成四年正月祭
社頭授与品並びに縁起守紹介

平成四年正月に当大社の社頭に於て、初詣の皆様に授与いたします。縁起守などを誌面を以って紹介させていただきます。

――◇――◇――

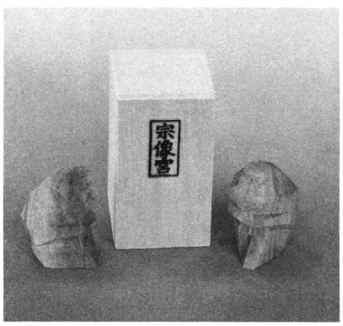
干支（えと）一刀彫

初穂料　一体　二、〇〇〇円

この一刀彫は、毎年元旦を期して授与している縁起守です。クスの木を材料にその年の干支を、一本のノミだけで奉製することから一刀彫と称します。当大社では伊勢の名匠に製作を以来、二千体を一年がかりで奉製していただいております。

この一刀彫を十二体、つまり十二支全部揃えると願い事が叶い縁起が良いと言い伝えられております。特に毎年、干支年にあたられる年男や年女の方が「えと守」として受けられることが多く、それ以降毎年希望されているようです。

来年は「壬申（みずのえさる）」、かわいい猿の一刀彫を桐箱に収め、例年同様授与致します。お正月だけに限られた授与品ですので、早めにお受けいただきますようご案内致します。



新春福みくじ

初穂料　一体　五〇〇円

新春の社頭に於て皆様方のその年の運勢と福運を占っていただこうと、例年同様「新春福みくじ」を準備いたしております。

この「福みくじ」、近年は皆様方の初詣の楽しみとしてすっかり定着しており、授与終了の時間は年々早くなっております。来年は本年より一万体ほどふやし、四万体を準備しております。賞品は特賞から八等賞迄の各賞毎に、翁面、特製福迎え、金杯、家庭・レジャー用品、ぬいぐるみ・玩具などのさまざまな品を沢山準備いたしております。「福みくじ」を受けられた方々には必ず賞品を授与致します。またダブルチャンスの可能性もありますので、ご参拝の折りには是非その年の運勢を占っていただきますようご案内致します。

宗像狛犬（こまいぬ）（一対）

初穂料　一体　三〇、〇〇〇円

この「宗像狛犬」は、当社の社宝「木造狛犬」（重要文化財）のミニチュアで、博多人形師に製作していただいております。

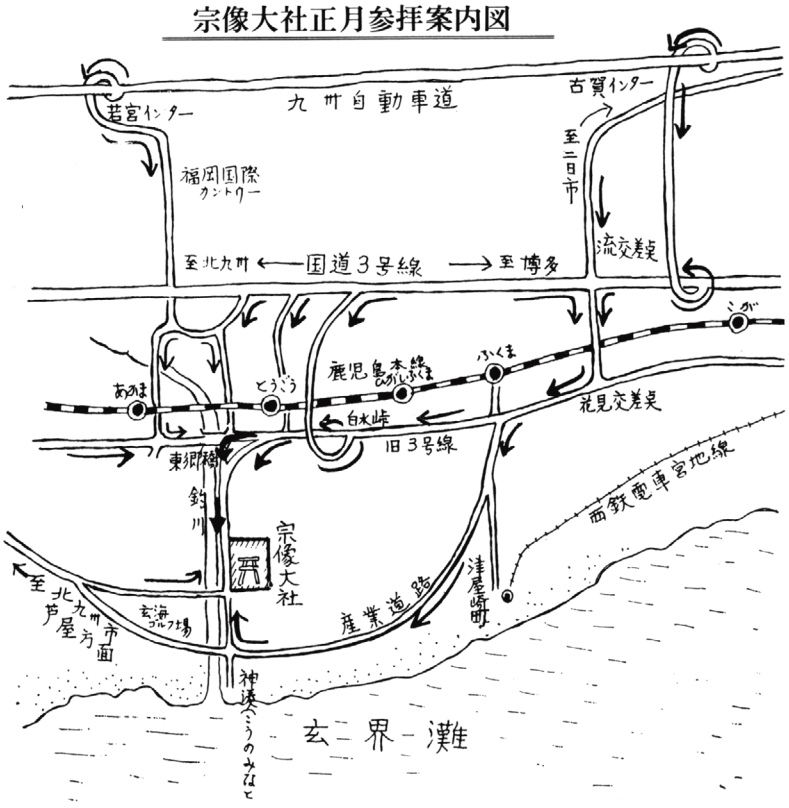
「木造狛犬」は、もと当大社辺津宮の神前にあったものと伝えられており、朝鮮半島から伝来した「高麗（こうらい）狛」の様式と考えられる特異な面貌や、頭部の捻髪にみる独特な表現、右側狛犬の額に獅子化狛犬の名残をとどめる一角を存するなど、狛犬としては極めて珍しい姿のもので、通称「宗像狛犬」として有名です。肢体に逞しい力と強靱な肉体を表現しており、素朴で豪快な重量感に溢れる鎌倉時代の名作です。

皆様方に授与致します狛犬は、この「木造狛犬」を精興に複製したもので、約五分の一に縮小しております。授与数は二十体に限らせていただきます。

――◇――◇――

尚、宗像大神の御加護をいただかれ、家庭または会社の一年間の幸福と繁栄、災難消除を祈念する、交通安全・家内安全、業務繁栄などの御祈願も例年通り斎行致します。更に破魔矢・鏑矢・福迎えなどの縁起守、神札・車両用お守り・身体用お守りなども本年同様授与致します。

宗像大社正月参拝案内図



宗像大社辺津宮境内図

◉宗像大社までは
◉赤間駅からバスで二十五分（快速停車駅）
◉東郷駅からバスで十分